

藤田医科大学（後期） 英語

2022年3月4日実施

マーク解答

| | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 第1問 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | |
| | (2) | (2) | (1) | (4) | (3) | (3) | | |
| 第2問 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| | (6) | (2) | (5) | (6) | (7) | (6) | (2) | (4) |
| 第3問 | 15 | 16 | 17 | 18 | | | | |
| | (1) | (3) | (3) | (3) | | | | |
| 第4問 | 19 | 20 | 21 | 22 | | | | |
| | (4) | (4) | (3) | (2) | | | | |

記述解答

第5問

| | |
|--------|---|
| 問 1 | <p>言葉の意味の理解のような特定の言語機能と複雑な運動技能は同一の脳領域によって制御されていることを示唆する先行研究と、言語に関係する脳領域が、道具の使用がより活発になった時代に増大したという古神経生物学における知見とをもとに構築された、複雑な道具の使用と複雑な言語の使用は同じ脳領域が司っているという仮説を検証すること。</p> <p>(別解) 先行研究によりある種の言語機能を制御する脳領域は細かな運動能力を制御することにも関連していることが示されているものの、脳画像法では言語と道具使用の間に関連があるという証拠は得られていなかったということ、及び古神経生物学により、言語に関連する脳領域の発達は道具使用が拡大した時期と軌を一にすることが示されたということ、以上の2つを背景として、複雑な動きを要する道具使用は、複雑な言語機能において動員されるのと同じ脳領域の活動に依存しているのではないか、という疑問が生じたこと。</p> |
| 問 2 | <p>(i) 文の組み立てが単純なフランス語の文と複雑なフランス語の文を読み、その後それらの文内容に関する問いの真偽を解答する</p> <p>(ii) ペンチを使って鍵のような形状の釘を、形状が適合する穴に向きも合わせて挿入する</p> |
| 問 3 | <p>人類の祖先が道具を作り、使用し始めた時期に、こうした技能の上達が脳を大きく変化させ、またより高度な認知機能を必要とさせたのであり、そのことが文の組み立てのようなある種の機能を生じさせる原因になったのかもしれないということ。</p> |
| 問 4 | <p>い</p> |

第6問

| | |
|-----|--|
| (1) | the drain system of Victorian era cannot deal with the significant population increase, which makes the growth of London problematic, too. (別解) the growth of London is also a problem as its Victorian era drainage system cannot cope with the huge increase in population. |
| (2) | a warmer atmosphere has resulted in more frequent occurrences of intense and brief downpours responsible for flash floods. (別解) warming means these heavy short-duration downpours which cause flash flooding are becoming more common. |
| (3) | To detect an approach of extreme rainfall may help reduce the risk of flash floods. (別解) Knowing that heavy rainfall is on its way can make it easier to mitigate against the risks of flash flooding. |

解説

第1問

文法・語法

問 1. (2) “~ his rival could not but congratulate him.”

「彼のライバルは彼を祝福せずにはいられなかった」

<cannot but do ~> 「~せざるをえない、~せずにはいられない」 同意表現として、<cannot help doing ~>、<cannot help but do ~>も併せて押さえておきたい。

問 2. (2) “~ I seldom if ever have a chance to do so.”

「そうする機会が時にはあるものめったにない」

<seldom if ever> 「時にはあってもめったに~ない」 “if ever” は seldom または rarely の直後に挿入的に用いられる。

問 3. (1) “~ it is important to follow local customs.”

「現地の習慣に従うことが大切である」

custom 「(社会・集団の)習慣・慣習」、habit 「(個人の)習慣」

問 4. (4) “My house is within five minutes of the nearest station.”

「私の家は最寄り駅から5分圏内にある」

<within ~ of ...> 「...から~以内に」

問 5. (3) “The kidnappers made good on their promise to release the hostages.”

「誘拐犯は人質を解放する約束を果たした」

<make good on ~> 「~を果たす、~に成功する」

問 6. (3) “Unable to solve this difficult question, I had to ask my teacher for help.”

「私はこの難解な問題を解くことができず、先生に助けを求めなければならなかった」

<be unable to do ~> 「~できない」 ここでは “(being) unable to solve ~” という分詞構文。

第2問

語句整序

- 問 1. (6) (2) **Had she been examined earlier last year** (, her cancer would have been found before it was too late.)
 “If she had been examined earlier last year” の If が省略され倒置が起こっている。
- 問 2. (5) (6) **A week before I left, I had my car repaired**(.)
 “A week” は副詞要素として “before I left” を前から修飾している。 <have A done> 「A を～してもらう、A を～される」
- 問 3. (7) (6) (The bay) **as it was seen from that spot was a** (splendid spectacle.)
 “as it was seen from that spot” は形容詞要素として The bay を後ろから修飾している。なお、名詞に対して as 節が後置修飾する典型例として、以下のような文が挙げられる。
 (ex) Life **as we know it** would be impossible without water. 「我々が知っているような生命体は水なしでは存在しえないだろう」 as をこのような用法で用いる場合、節内は指示代名詞 it または they が用いられることが多いという特徴も押さえておくとよい。
- 問 4. (2) (4) (That book) **is the first to dwell on them** (in this field.)
 “to dwell on them” は形容詞要素として the first を後ろから修飾している。 <dwell on A> 「A について詳しく話す」

第3問

長文総合

- 問 1. (1) HireVue is a company whose primary focus is to make interviewing more **accessible**.
 「HireVue 社が一番力を入れているのは、面接をよりやりやすくすることである」 同じ Kevin の最初の発言部分の第3文において、“~, our system allows candidates to interview for jobs at any time of day and from any location” 「~, HireVue 社のシステムによって、志願者はいつでもどこからでも仕事の採用面接を受けるのが可能になる」とあり、これが根拠となる。
- 問 2. (3) 「構造化面接により、質問の仕方に関して一貫性を担保できる」
 Kevin の3つ目の発言部分の第1文において、“Ask every candidate the same question in the same way, ~” 「どの志願者にも同じ質問を同じように行い、~」とあり、これが根拠となる。
- 問 3. (3) 「HireVue 社のシステムによって、志願者は面接時の質問に対して与えた自らの回答を再利用することができる」
 このような事実は本文では述べられていない。
 なお、(1)の「HireVue 社のシステムは、面接の間、質問に答える際に志願者が用いる単語を分析する」は、Kevin の4つ目の発言部分の第1文で述べられている。また、(2)の「HireVue 社のシステムは、様々な場所で大規模な面接を行う会社に恩恵をもたらす」は、Kevin の3つ目の発言部分の第1, 2文で述べられている。(4)の「HireVue 社のシステムのおかげで、面接が行われる日時に関して融通がきくようになる」は、Kevin の1つ目の発言部分の第3文で述べられている。
- 問 4. (3) 「HireVue 社のシステムは、志願者の出した答えの内容を評価することができる」
 HireVue 社のシステムが志願者の解答内容に注目していることは、Kevin の4つ目の発言以降からわかる。Kevin の最後の発言における第1文に “HireVue’s algorithms are trained on top, middle, and low performers and are looking for the differences between them.” とあり、HireVue 社のアルゴリズムには志願者の優劣に応じた違いに関するデータが蓄積されていることがわかる。次の第2文に “The algorithms then compare new video interviews of job applicants against that data.” 「そして HireVue 社の

アルゴリズムは新たな志願者のビデオ面接時にそのデータと比較する」とあるため、HireVue 社はこのアルゴリズムを用いて、志願者の出した答えを評価していることがわかる。

第4問

長文総合

- 問 1. (4) “~, tracking and understanding these land changes can help us identify areas of coastal highway that are especially prone to damage.”

下線部を含む文のおおよその意味は「～、これらの土地の変化を追跡し理解することによって、私たちは特に損害を受けやすい沿岸の道路のある地域がどこか見極めることができる」である。第1段落第1文に、「研究者たちはバリアー島の景観の変化を数量化する方法を開発し、そうする際に、人間のインフラを破壊する嵐が沿岸の野生生物を繁栄させる機会を生み出すということがわかった」とあることから、「インフラ」である「沿岸の道路」は「損害を受ける危険性があることがわかる」<prone to ~> 「～の影響を受けやすい」という意味だが、これと最も意味が近いのは (4) vulnerable である。

- 問 2. (4) “~, but this work shed light on both how storms create habitat and how long that habitat lasts.”

空所(あ)を含む文のおおよその意味は「～、しかしこの研究は、嵐が生息域を生み出す仕組みと、その生息域が存続する期間を明らかにした」である。第6段落第1文に、「その画像が明らかにしたのは、2011年のハリケーン・アイリーンと2012年のハリケーン・サンディとがピー島国立鳥獣保護区を変容させた程度であった」とあり、画像の分析を行う研究から嵐が生息域に及ぼす影響などを「明らかにした」ということがわかる。<shed light on ~> で「～を明らかにする、解明する」となる。

- 問 3. (3) 「次の嵐が島にいつ襲来するのかを予測すること」

文中には述べられていない。他の選択肢に関しては、(1) 第4段落第1文「このツールを用いることで～、土地を12のカテゴリに分類できる」、(2) 第3段落最終文「その画像は、研究者たちが島の地形の変化を扱うための地形モデルを作るのに使用された」、(4) 第2段落最終文「それはまた、自然の作用やインフラプロジェクトがどのように海岸の野生生物の生息域に影響を与えるのかをより深く理解する手助けをするかもしれない」においてそれぞれ言及されている。

- 問 4. (2) 「野生生物の生息域への影響の種類は、嵐が来る方向によって決まる」

第8段落第1文の「研究者たちによってバリアー島について明らかになったことは、多くのことが嵐の来る方向によって決まるとのことだ」や、襲来の方角の異なる二つの嵐について言及された第8段落最終文「しかしながら、この二つの嵐の長期的な影響は決定的に異なる」などが解答の根拠となる。

第5問

長文総合 (※以下解説の段落番号は、問4で段落挿入を行った上での番号となる。)

- 問 1. 下線部《A》“A new study”の動機を説明する問題。「動機」に関わる記述を本文に探すと、第4段落第1文が決定的に重要であることがわかるだろう。

“When considering this data, research teams couldn’t help wondering: ~” 「こうしたデータを考慮すると、研究チームは疑問を抱かずにはいられなかった。複雑な動きを伴うある道具の使用が、文の組み立てなどの複雑な言語機能に動員されるのと同じ脳内回路に依存しているとしたらどうだろう」この疑問に答えを出そうとして始められたのが、今回の新たな研究である。

次に this data というややあいまいな表現の指す内容を考える。前段落に注目すると、第1, 2文に「単語の意味の処理など、ある種の言語機能を司る脳領域が、微細運動能力の制御にも関与していることを示唆する研究結果がある。しかし、言語と道具の使用がそのように関連しているという証拠は、これまで脳画像では得られていなかった」とあり、先行研究ではまだ証拠を確認できていな

い状況であった。その限界を乗り越えることが研究の動機に関わっていたであろうことは、第6段落第1文の記述からも予想できる。今回の新たな研究では fMRI(機能的磁気共鳴画像法)を用いて、先述のような事実を確認したのである。

以上のように第3段落第1, 2文を根拠として動機を説明することはできるのだが、加えて同段落最終文の内容にも注目する必要がある。“Paleo-neurobiology has also shown that ~”とあり、この内容も含めて最終的に第4段落第1文につながると考えられるからである。その1文のおよその意味は「また、古神経生物学では、道具の使用が普及した技術的急発展の時期に、言語に関連する脳領域が人類の祖先において増大していたことが示されている」である。

これらの内容をまとめると、記述すべきポイントは以下の通り。

- ・ 先行研究によりある種の言語機能を制御する脳領域は細かな運動能力を制御することにも関連していることが示されていた。(しかし、言語と道具の使用がそのように関連しているという証拠は、これまで脳画像では得られていなかった)
- ・ 古神経生物学では、道具の使用が普及した時期に、言語に関連する脳領域が人類の祖先において増大していたことが示されていた。
- ・ 複雑な動きを伴うある道具の使用が、文の組み立てなどの複雑な言語機能に動員されるのと同じ脳内回路に依存しているのではないか、という疑問を抱いた。

- 問2. 下線部《B》は「道具使用を含む運動訓練は複雑な文章の成り立ちを理解する能力を向上させる」となる。このことを確かめる実験の記述は、第9段落第1文「今回、参加者は30分のペンチを用いた運動訓練の前後に文の成り立ちの理解を問う課題を実行するように要求された(実験の詳細は以下の枠内を参照のこと)」から始まっている。今回は「ペンチを用いた運動訓練」と「文の成り立ちの理解を問う課題」の2つの部分を詳しく説明することで回答とした。運動訓練に関しては、第10段落を訳せば解答となる。言語課題については第11段落を参照する。フランス語の例が示されており、少しわかりにくいですが、
- ・ 文の組み立てが単純なフランス語の文と複雑なフランス語の文を読む
 - ・ その後それらの文内容に関する問いの真偽を解答する
- という2つの要素が抜き出せると良い。

- 問3. 下線部《A》の研究が人類史における言語の発達について示唆する内容は、第14段落第4文に示されている。その1文のおよその意味は「人類の祖先が道具を作り、使用し始めた時期に、こうした技能の上達が脳を大きく変化させ、またより高度な認知機能を必要とさせたのであり、そのことが文の組み立てのようなある種の機能を生じさせる原因になったのかもしれないと、Brozzoli氏は結論付けている」である。

- 問4. 【い】の直後にある第6段落1文の“the same team”が指すものを考えるとよい。第4段落には“research teams”とあるものの、特定の研究チームの紹介はなされていない。挿入すべき段落を確認すると、“In 2019, Inserm researcher Claudio Brozzoli in collaboration with CNRS researcher Alice C. Roy and **their team** had shown that individuals who are particularly proficient in the use of tools were also generally better at handling the finer points of Swedish syntax.” 「2019年、Insermの研究者 Claudio Brozzoli は CNRS の研究者 Alice C. Roy と協力し、**彼らのチームは**、一般に、道具の使用によく習熟するとスウェーデン語の文を組み立てる際にもより細かな点をもっと上手く扱えるようになることを明らかにした」とあることから、先の第6段落第1文目の“the same team”は、この研究チームのことを指すと判断できる。従って、【い】が適切な挿入箇所となる。

第6問

長文中和文英訳

- 問1. 「ビクトリア朝(Victorian era)の排水体系では大幅な人口増加に対処できないので、ロンドンの成長もまた問題である」
本文中にある表現から、「排水」は *drain*、「体系」は *system* などを利用するとよい。「大幅な人口増加に対処できない」は *cannot deal with the significant population increase / is unable to cope with the huge increase in population / is incapable of addressing the drastic population growth / fails to handle the population explosion* などと表せる。「ロンドンの成長もまた問題である」は *~, which makes the growth of London problematic, too / the growth of London is also a problem / London's development also comes to an issue* などとするとよい。
- 問2. 「温暖化の結果、フラッシュフラッドの原因となる激しく短時間の突発的土砂降りが、より頻繁に見られるようになっている」
本文中にある表現から、「温暖化」は *a warmer atmosphere*、「フラッシュフラッド」は *flash floods / flash flooding* などを利用するとよい。「温暖化の結果、～が、より頻繁に見られるようになっている」は *a warmer atmosphere has resulted in more frequent ~ / warming means ~ are becoming more common / the warming has more frequently seen ~* などと表せる。「～の原因となる激しく短時間の突発的土砂降り」は *occurrences of intense and brief downpours responsible for ~ / heavy short-duration downpours which cause ~ / sudden and short downpours causing ~ / heavy rainfalls that occur unexpectedly in a short time, triggering ~* などとするとよい。
- 問3. 「豪雨の接近を把握することで、フラッシュフラッドの危険を減らしやすくなるかもしれない」
本文中にある表現から、「豪雨」は *intense rainfall / extreme rainfall*、「フラッシュフラッド」は *flash floods / flash flooding* を利用するとよい。「接近」は *approach / be on one's way*、「把握する」は *detect / know / sense / foresee*、「～の危険を減らす」は *reduce the risk of ~ / mitigate the risk of ~*、「～しやすくなる」は *help (to) do ~ / be more likely to do ~ / make it easier to do ~*、「かもしれない」は *can / may ~* などと表せる。また「～することで」は無生物の主語として表すほかに、*by doing ~* と手段を表す副詞として表すこともできる。

講評

- 第1問** [文法・語法 4 択] (標準) 頻出の語法・イディオムの知識が幅広く問われており、総じて標準的な良問。確実に得点したい。
- 第2問** [語句整序] (やや易) 英文法の基本をしっかりと理解できていれば、正解できる良問。確実に得点したい。
- 第3問** [長文総合] (やや易) 「AI を用いた面接」に関するインタビュー記事を基にした長文。前期と同様の出題形式で、内容や話題となっている状況に関する推測能力が問われる。
- 第4問** [長文総合] (やや易) 「嵐がバリアー島の景観変化に及ぼす影響」に関する英文。前期と同様の出題形式で、文章内容も比較的平易で取り組みやすい。
- 第5問** [長文総合] (標準) 「道具使用と言語能力との関連」に関する英文。説明問題は根拠とすべき箇所を特定する手がかりは見つけられるが、どこまで記述すべきかの判断に迷うかもしれない。また一部日本語として仕上げるのが難しい箇所も含まれる。
- 第6問** [長文中英訳] (標準) 「異常気象による都市部における鉄砲水のリスク増加」に関する英文中の和文英訳問題。英文中に若干単語のヒントがあり、基本となる英文構造を予想することも比較的容易である。

マーク部分、記述部分ともに、昨年度後期よりも取り組みやすい。記述部分の出来で差がつくだろう。1 次合格のための目標は 65%

本解答速報の内容に関するお問合せは

医学部進学予備校 **メビオ**

☎ 0120-146-156 受付 9:00~21:00(土日祝可)
 大阪市中央区石町 2-3-12 ベルヴォア天満橋
<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校 **YMS** ☎ 03-3370-0410
<https://yms.ne.jp/>

医学部専門予備校 **英進館メビオ** 福岡校 ☎ 0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>



友だち追加で全科目を閲覧!
LINE 公式アカウント

◀ メビオの友だち登録はこちらから

苦手も得意も今から伸ばす!

春期講習

早めに学習の基礎を固めて、今後の成績を底上げしておきましょう!

2泊3日無料体験

寮の宿泊・食堂利用・メビオの2泊3日無料体験をご用意しました!

第1期 3/20 (日・祝) 開講
 第2期 3/27 (日) 開講

オンラインクラスも同時開講!

医学部受験相談会 /2022/

〈好評開催中〉

大阪/京都/和歌山/名古屋/広島

医学部を目指すみなさまへ

長年にわたって医学部受験を指導している現役講師が壇上に立ち、医学部入試についての詳細な分析をお伝えします。入試にまつわる悩みや学習のご相談にもお答えします。

各会場では無料体験授業も実施(参加自由)

春期講習のお申し込み、説明会日程の確認、ご予約はお電話、HP、QRコードから承ります

